

データと熟議を通じた「逆転と再生」上田リバーズ会議

上田ビジョン研究会：浅輪剛博、岡崎謙一

<https://ueda-vision.jimdosite.com>、uedavision@gmail.com

はじめに

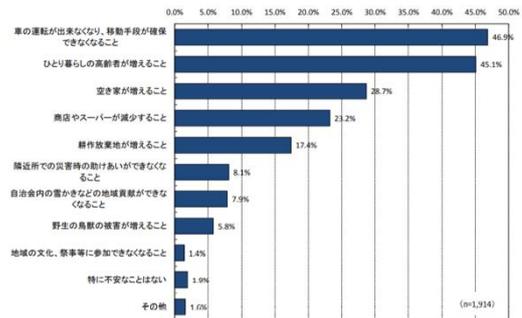
急激な人口減少と高齢化、そしてインフラ更新時期の到来、スプロール化による人口密度の減少。日本の各地で同じような問題が起きている。しかし、この現実を本質的に受け止め、明確に変化を起こしていこうとする動きは乏しい。

長野県上田市では、市民と自治体の共催で多様な立場の参加者が集まる学習会「上田リバーズ会議」を連続で開催し、思い込みや思いつきではなくデータを俯瞰して課題に正面から立ち向かい、大きな変化を呼び起こそうとしている。ここでは、本全国大会の主催メンバーの一つでもある「上田ビジョン研究会」の取り組みを紹介する。

1. 上田市の数多い計画を分担して読み込む

市民有志が集まって議論するうちに、まちなかに一人暮らしや空き家が増え、駐車場の増えてきていることに気づき一体何が原因となっているのかを探ろうとした。千葉商科大学の田中信一郎さんのファシリテートで、まず上田市が策定している数多い計画を読み込むことにした。メンバーがそれぞれ一つの計画を選び、その内容の要点を発表し合うことで主要な計画の概要を頭に入れることにした。

上田市住民アンケート2019年10月
少子高齢化、人口減少が進む中において、今後、上田市で暮らしていく上で、どのようなことに不安を感じますか？（2つまで）



2. 市民の四大不安とその原因

2019年に行われた上田市住民アンケートによると少子高齢化の中で一番大きな不安は、免許返納の後の移動の困難さ、一人暮らし・空き家が増えること、近所にお店がなくなることであった。これらを四大不安と呼ぶことにした。その原因を探っていくと、特に1960年代以降に起きた中心市街地のスプロール化による人口密度の減少が根本的な原因であると分かった。そこで、この分析結果をスライドや動画にまとめて、広く市民に伝えることにした。



3. 上田リバーズ会議の開始と冊子の作成

「リバーズ」という音は英語の Reverse（逆転）と Rebirth（再生）の二つの言葉を表せるこ



とから命名した。まさに「逆転と再生」を重要なテーマとして、「上田リバーズ」というタイトルの冊子作りと、「上田リバーズ会議」を年に 5～7 回ほど連続開催することにした。

この会議では毎回冒頭の 10 分で上田の現状を示すデータの共有を行っている。複数のデータの俯瞰を前提とした市民の熟議によって、今までの思い込みやしがらみを越えること

ができるのではと考えたからである。スプロール化で自家用車依存になり、歩行者が減り、地元商店の売上げが落ち、不動産価値が下がり、固定資産税収入が減る一方、人口減少と高齢化・インフラ老朽化によって、今後は今までの何倍もの公共支出が必要になってくるなど、地域の土台となる課題を踏まえて熟議しようと呼びかけている。

では具体的には何ができるのか？毎回ゲストのレクチャーで逆転と再生へのヒントを聞いた。その上で小グループで自由に対話を行う。市や県の職員、議員、事業者、金融機関、市民団体、高校生や大学生など、立場や肩書きを超えた熟議が行われる。その結果を slido などを利用して全体で共有してゲストスピーカーと共に、内容を深めていった。今までの上田リバーズ会議の様子は右の QR コードから動画でも見るできるので、ご参照いただきたい。



4. 上田まちなかデザイン会議や環境省脱炭素先行地域への広がり

すべての会議は上田市と共催しており、行政職員が多数参加することが特徴的である。さらに広がりも見せている。例えば、市内の店主や福祉施設のメンバーが公共交通を活性化しながらまちなかの魅力アップを図る「上田まちなかデザイン会議」を開催したり、上田市と市内の企業が共同で提案した「再エネと交通まちづくり」による事業が環境省の脱炭素先行地域に選定された。まちなかの人口密度の拡大、多様なアクティビティの混在、そして公共交通の活性化、が共通の目標として掲げられてきている。

おわりに

コンパクト・アンド・ネットワークは、すでに、郊外に家を持っている人からの反発が大きかったり、耕作放棄せざるを得ない農地の宅地化など、市民の個別の利害によってなかなか進まないことが多い。そこで上田リバーズ会議では前提データを繰り返し示し、小グループに分かれて熟議をすることで、市民も地域の課題を理解し、上田市全体の最適な形、将来ビジョンを共有できるように工夫することで、行政とも協働して課題解決ができるのではないかと期待して、活動を続けている。

参考文献

上田リバーズ「上田の大危機を乗り越えるための5つのヒント」